

令和6年度

佐賀県小・中学校学習状況調査 及び 全国学力・学習状況調査

— 調査結果 と 指導改善のポイント —

小学校国語科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
 - ・ 誤答例と児童のつまずき
 - ・ 指導改善のポイント
 - ・ 授業アイディア例
- 5 同一児童の経年比較
- 6 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和6年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

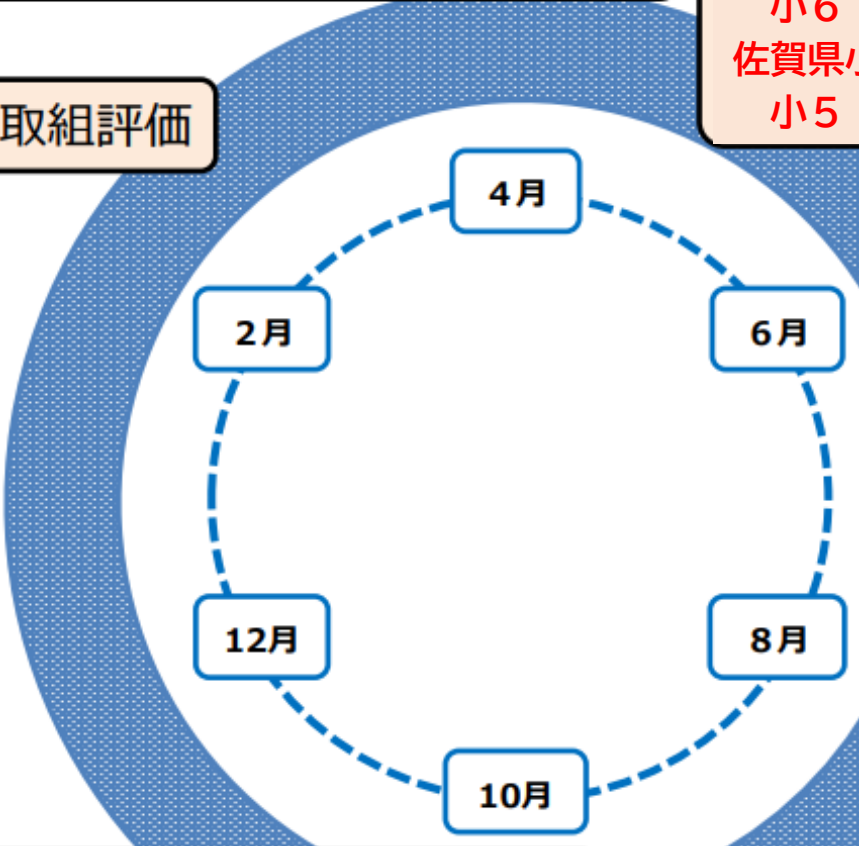
検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和6年4月18日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

小5国語

年度	目標値	県平均正答率
R 6	64.4 %	60.8 %
R 5	67.3 %	67.4 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－3.6

＋0.1

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R6の県平均正答率は、目標値を3.6ポイント下回った。
また、R5は目標値を上回ったが、R6は目標値を下回った。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

小5国語

知識・技能

年度	目標値	県平均正答率
R 6	65.8 %	62.4 %
R 5	68.2 %	69.9 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-3.4

+1.7

R6の県平均正答率は、目標値を3.4ポイント下回った。
また、R5は目標値を上回ったが、R6は目標値を下回った。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《事項別》

小5国語

事項	年度	全国平均正答率	県平均正答率
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	R 6	65.3 %	64.6 %
	R 5	70.4 %	69.6 %
(2) 情報の扱い方に関する事項	R 6	52.6 %	46.0 %
	R 5	68.4 %	66.4 %
(3) 我が国の言語文化に関する事項	R 6	74.9 %	73.0 %
	R 5	90.5 %	83.0 %

全国平均正答率
との差
(県平均正答率
－全国平均正答率)

－0.7

－0.8

－6.6

－2.0

－1.9

－7.5

※県調査の全国平均正答率は、調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

R6の県平均正答率は、全ての事項で全国平均正答率を下回った。
しかし、R5と比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で改善が見られた。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

小5国語

思考・判断・表現

年度	目標値	県平均正答率
R 6	60.7 %	56.1 %
R 5	63.0 %	62.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－4.6

－1.0

R6の県平均正答率は、目標値を4.6ポイント下回った。
また、R5と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

小5国語

領域	年度	全国平均正答率	県平均正答率
A 話すこと・ 聞くこと	R 6	66.7 %	59.4 %
	R 5	73.0 %	71.0 %
B 書くこと	R 6	61.7 %	53.1 %
	R 5	54.9 %	50.9 %
C 読むこと	R 6	61.1 %	55.3 %
	R 5	73.3 %	68.5 %

全国平均正答率
との差

(県平均正答率
－全国平均正答率)

－7.3

－2.0

－8.6

－4.0

－5.8

－4.8

※県調査の全国平均正答率は、調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

R6の県平均正答率は、全ての事項で全国平均正答率を下回った。
また、R5と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

小6国語

年度	全国 平均正答率	県 平均正答率
R 6	67.7 %	66 %
R 5	67.2 %	68 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率
－全国平均正答率)

-1.7

+0.8

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数で提供されています。

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を1.7ポイント下回った。
また、R5は全国平均正答率を上回ったが、R6は全国平均正答率を下回った。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

小6国語

年度	全国 平均正答率	県 平均正答率
R 6	69.8 %	69.1 %
R 5	68.9 %	69.6 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率
－全国平均正答率)

-0.7

+0.7

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を0.7ポイント下回った。
また、R5は全国平均正答率を上回ったが、R6は全国平均正答率を下回った。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《事項別》

小6国語

事項	R 5 県調査 対全国比	R 6 全国調査 対全国比
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	0.99	0.99
(2) 情報の扱い方に関する事項	0.97	0.99
(3) 我が国の言語文化に関する事項	0.92	0.97

R 5 調査対全国比

との差

(R 6 全国調査対全国比
－ R 5 県調査対全国比)

0.00

+ 0.02

+ 0.05

※全国調査には目標値が設定されていないため、対全国比（県平均正答率÷全国平均正答率）での比較

※県調査の全国平均正答率は、調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、R6全国調査とR5県調査を対全国比で比べると、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で改善が見られた。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

小6国語

年度	全国 平均正答率	県 平均正答率
R 6	66.0 %	63.4 %
R 5	65.5 %	65.9 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率
－全国平均正答率)

-2.6

+0.4

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を2.6ポイント下回った。
また、R5は全国平均正答率を上回ったが、R6は全国平均正答率を下回った。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》

小6国語

領域	R 5 県調査 対全国比	R 6 全国調査 対全国比
A 話すこと・ 聞くこと	0.97	0.95
B 書くこと	0.93	0.97
C 読むこと	0.93	0.96

R 5 調査対全国比

との差

(R 6 全国調査対全国比
－ R 5 県調査対全国比)

－0.02

＋0.04

＋0.03

※全国調査には目標値が設定されていないため、対全国比（県平均正答率÷全国平均正答率）での比較

※県調査の全国平均正答率は、調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、R6全国調査とR5県調査を対全国比で比べると、
「書くこと」「読むこと」で改善が見られた。

小学校国語科において

第5学年では、令和5年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 事項別の県平均正答率（「言葉の特徴や使い方に関する事項」
「我が国の言語文化に関する事項」）

第6学年では、令和5年度の県調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 事項別の県平均正答率（「言葉の特徴や使い方に関する事項」
「我が国の言語文化に関する事項」）
- 領域別の県平均正答率（「書くこと」「読むこと」）

3 成果が見られた設問

- ◇ 必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいこと
の中心を捉えることができる。
- ◇ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句
との関係の表し方を理解し使うことができる。

4 課題が見られた設問

- ◆ 叙述を基に文章の内容を捉えることができる。
 - ◆ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。
 - ◆ 登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができる。
 - ◆ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。
- 〈R 5 県調査及び全国調査で見られた共通の課題〉
- ◆ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。

指導改善のポイント

叙述を基に文章の内容を捉えることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 考えとその事例、結論とその理由といった関係に着目し、書き手の考えがどのような理由によって説明されているのか、どのような事例によって具体化されているのかなどを、叙述を基に正確に捉える学習活動を設定する。
- 「このようなことから」「なぜかという」となどの指示する語句や接続する語句を基に、文相互の関係、段落相互の関係をつかむ学習活動を設定する。

指導改善のポイント

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 「これだけは伝えたいこと」「質問があれば答えること」など、話す内容について具体的に考え、関係する材料を整理する学習活動を設定する。
- 伝え合う際の状況を想定して、話す内容に合わせて即興的に分かりやすく伝えられるよう、必要に応じて提示する資料を検討する学習活動を設定する。

指導改善のポイント

登場人物の相互関係や心情などについて、叙述を基に捉えたり、描写を基に捉えたりすることができるようにするためには、文学的な文章において、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちなどを捉えたり、複数の描写を結び付けて心情の変化などを捉えたりする学習活動を設定する。
- 語彙の指導との関連を図り、語句の量を増したり、語句のまとめりや関係、構成や変化について理解したりする学習活動を設定する。

4 課題が見られた設問

授業アイディア例

言語活動：「ごんぎつね」を読んで、心に残ったことを交流する。

〔物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉える場面〕

三
兵十が、赤い井戸のところで、麦をといでいました。
兵十は今まで、おつ母と二人ふたりきりで、貧しいくらしをしていたもので、おつ母が死んでしまっ
は、もう一人ぼっちでした。
「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」
こちらの物置ものおきの後うしろから見えていたごんは、そう思いました。
ごんは物置のそばをはなれて、向うへいきかけますと、どこかで、いわしを売る声がします。
「いわしのやすうりだアイ。いきのいいいわしだアイ」
ごんは、その、いせいのいい声のする方へ走っていききました。と、弥助やすけのおかみさんが、裏戸口
から、
「いわしをおくれ。」と言いました。いわしのかごをつんだ車を、道ばたにおいて、ぴか
ぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助の家の中へもってはいりました。ごんはそのすきまに、かごの中
から、五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十の家の裏口か
ら、**家の中へいわしを投げこんで**、穴へ向わかってかけもどりました。途中の坂の上でふりかえって見ま
すと、兵十がまだ、井戸のところで麦をといでいるのが小さく見えました。
ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。
(中略)
ごんはこうおもいながら、そっと物置の方へまわってその入口に、栗をおいてかえりました。
つぎの日も、そのつぎの日もごんは、栗をひろっては、兵十の家へもって来てやりました。そのつぎの
日には、栗ばかりでなく、まつたけも二、三ばんもっていききました。

一
これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんからきいたお話です。
むかしは、私たちの村のちかくの、中山というところに小さなお城があつて、中山さまというおとのさ
まが、おられたそうです。
その中山から、少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」という狐がいました。ごんは、一人ぼっちの小狐
で、しだのいつばいしげった森の中に穴をほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ
出てきて、**いたずらばかりしました**。はたけへ入って芋をほりちらしたり、菜種がらの、ほしてあるのへ
火をつけたり、百姓家の裏手につるしてある とんがらしをむしりとり、いったり、いろんなことをし
ました。(略)



教師

物語全体を通して内容を確認めます。まずは、
ごんの行動が分かるところを見付けましょう。

一の場面では、「**いたずらばかりしま
した**。」と書いてあります。

三の場面では、ごんは、「**兵十の家に
いわしを投げこんで**」います。

三の場面の後半では、「**つぎの日も、
そのつぎの日も、ごんは栗をひろって
は、兵十のうちへ もって来てやりまし
た**。」と書いてあります。

始めは、いたずらばかりしていたごん
だったけど…行動が変わっているよう
です。会話や地の文ではどうかな。



児童 A



児童 B



児童 C



児童 A

登場人物の行動の背景には、そのときの、あるいはその行動に至る
までの気持ちがある場合が多いです。物語全体を見通し、行動や
会話、地の文などの叙述を基に気持ちを捉えるようにしましょう。

4 課題が見られた設問

授業アイディア例

言語活動：「ごんぎつね」を読んで、心に残ったことを交流する。

〔語彙〕の指導との関連を図りながら登場人物の気持ちの変化を想像する場面〕

～児童Dが教科書に書き込んだことを示しながら話している～

三の場面のごんは「兵十の家の裏口から
いわしを投げ込んで」いたのに、六の場
面では「家の裏口から、こっそり中へ
はいりました。」と書かれているので気
持ちが変化していると思います。



児童D

始めは、投げ込んだのに、こっそり中へ
入ったのはどのような気持ちからだろう。



児童A

「こっそり」とはどのようなときに使う言葉ですか。



教師

見付からないようにするときに使います。



児童C

こっそりという言葉から、見付かりたく
はないけど、中に入って、自分が栗をあ
げていたことを兵十に気付いてほしい気
持ちもあったのではないかなと思います。



児童B

「様子や行動、気持ちや性格を表す語句」を捉えるなど、語彙の
指導との関連を図ることで、場面の移り変わりと結び付けて登場
人物の気持ちの変化を具体的に想像できるようにしましょう。

三

兵十が、赤い井戸のところで、麦をといでいました。
兵十は今まで、おっ母と二人ふたりきりで、貧しいくらしをしていたもので、おっ母が死んでしまっ
は、もう一人ぼっちでした。

「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」

こちらの物置ものおきの後うしろから見えたごんは、そう思いました。

ごんは物置のそばをはなれて、向うへいきかけますと、どこかで、いわしを売る声がします。

「いわしのやすうりだアイ。いきのいいいわしだアイ」

ごんは、その、いせいのいい声のする方へ走っていききました。と、弥助やすけのおかみさんが、裏戸口
から、

「いわしをおくれ。」と言いました。いわしを売うりは、いわしのかごをつんだ車を、道ばたにおいて、ぴか
ぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助の家の中へもってはいました。ごんはそのすきまに、かごの中
から、五、六びきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十の家の裏口か
ら、家の中へいわしを投げこんで、穴へ向わかってかけもどりました。途中の坂の上でふりかえって見ま
すと、兵十がまだ、井戸のところで麦をといでいるのが小さく見えました。

六

変化

そのあくる日もごんは、栗をもって、兵十の家へ出かけました。兵十は物置で縄なわをなっていました
た。それでごんは家の裏口から、こっそり中へはいりました。

そのとき兵十は、ふと顔をあげました。と狐が家の中へはいったではありませんか。こないだうなぎを
ぬすみやがったあのごん狐めが、またいたずらをしに来たな。

「ようし。」

兵十は立ちあがって、納屋なやにかけてある火縄銃ひなわじゅうをとって、火薬をつめました。
そして足音をしのばせてちかよって、今戸を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、ば
たりとたおれました。兵十はかけよって来ました。家の中を見ると、土間どまに栗が、かためておいてあ
るのが目につきました。

「おや」と兵十は、びっくりしてごんに目を落しました。

「ごん、お前まいだったのか。いつも栗をくれたのは」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。
兵十は火縄銃をぱたりと、とり落しました。青い煙が、まだ筒口つづくちから細く出てい



児童D

〔児童Dが教科書に書き込んでいる例〕

授業アイデア例

言語活動：「ごんぎつね」を読んで、心に残ったことを交流する。

〔文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、交流する場面〕

～教科書に書き込んだ箇所を示しながらグループで交流している～

六
そのあくる日もごんは、栗をもって、兵十の家へ出かけました。兵十は物置で縄をなっていました。それでごんは家の裏口から、こっそり中へはいりました。
そのとき兵十は、ふと顔をあげました。と狐が家の中へはいったではありませんか。こないだうなぎをぬすみやがったあの**ごん狐め**が、またいたずらをしに来たな。
「ようし。」
兵十は立ちあがって、納屋にかけてある火縄銃をとって、火薬をつめました。
そして足音をしのばせてちかよって、今戸口を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、ぱたりとたおれました。兵十はかけよって来ました。家の中を見ると、土間に栗が、かためておいてあるのが目につきました。
「おや」と兵十は、びっくりしてごんに目を落しました。
ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。
兵十は火縄銃をぱたりと、とり落しました。青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。

変化



児童B

【児童Bが教科書に書き込んでいる例】

六
そのあくる日もごんは、栗をもって、兵十の家へ出かけました。兵十は物置で縄をなっていました。それでごんは家の裏口から、こっそり中へはいりました。
そのとき兵十は、ふと顔をあげました。と狐が家の中へはいったではありませんか。こないだうなぎをぬすみやがったあの**ごん狐め**が、またいたずらをしに来たな。
「ようし。」
兵十は立ちあがって、納屋にかけてある火縄銃をとって、火薬をつめました。
そして足音をしのばせてちかよって、今戸口を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、ぱたりとたおれました。兵十はかけよって来ました。家の中を見ると、土間に栗が、かためておいてあるのが目につきました。
「おや」と兵十は、びっくりしてごんに目を落しました。
ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。
兵十は火縄銃をぱたりと、**とり落しました**。青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。



児童D

【児童Dが教科書に書き込んでいる例】



児童B

私は、六の場面の兵十の気持ちの変化が心に残りました。始めは、ごんのことを「**ごん狐め**」と呼んでいたけど、最後は「**ごん**」と呼んでいます。そこから、兵十は、始め、ごんを恨んでいたけど、ごんの優しさに気付いて、最後は、感謝していると思うからです。



児童D

ばくも、六の場面です。「**兵十は、火縄じゅうをぱたりと、とり落しました。**」の**取り落とす**という言葉は兵十が後悔している気持ちを表しているように感じました。



児童C

私は、同じ所の**取り落とす**という言葉から、兵十の悲しい気持ちを感じました。でも、Bさんの言うように感謝の気持ちも…



叙述を基に内容を捉え、具体的に想像して、感じたことや考えたことを基に交流します。同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くとともに、互いの感じたことや考えたことを理解し、他者の感じ方のよさに気付くことが大切です。

5 同一児童の経年比較

〈 R 6 全国調査結果と R 5 県調査結果との比較 〉

観 点	事項及び領域	R 6 全国調査 対全国比	R 5 県調査 対全国比	R 6 - R 5
知識・技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	0.99	0.99	0.00
	(2) 情報の扱い方に関する事項	0.99	0.97	+0.02
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	0.97	0.92	+0.05
思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと	0.95	0.97	-0.02
	B 書くこと	0.97	0.93	+0.04
	C 読むこと	0.96	0.93	+0.03

※全国調査には目標値が設定されていないため、対全国比での比較

※対全国比
(県平均正答率÷全国平均正答率)

※県調査の全国平均正答率は、調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、上記の事項及び領域で改善が見られた。

6 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

- ◆ 叙述を基に文章の内容を捉えることができるようにする。
- ◆ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにする。
- ◆ 登場人物の相互関係や心情などについて、叙述を基に捉えたり、描写を基に捉えたりすることができるようにする。

全ての教科の授業において、指導改善を図る！

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着
 - ・ 既習の知識・技能を活用し、課題を解決するなどの学習活動の設定
- 自分の考えを表現する学習活動の充実
 - ・ 根拠を明らかにし、これまで学習した事柄、各教科ならではの言葉を使って表現する学習活動の設定
 - ・ 児童同士が話し合い、考えをよりよいものにしていく学習活動の設定
- より考えを深める発問の工夫
 - ・ 「なぜ」「どうして」などの理由を問う発問
 - ・ 複数の読み取ったことを関連付けて考える発問

本資料で示したものは、佐賀県全体の調査結果です。各学校においても、分析を行い、児童の実態を踏まえた指導改善を図っていきましょう。